

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と授業改善	○基礎的、基本的な知識・技能を習得する	・漢字・計算の繰り返し学習を実施することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・自主学習を学年の実態に合わせて取り組ませる。 ・教材と関連した作品や様々な分野の本を紹介し、読書への意欲を高め、読書活動の充実を図る。	・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。	B	・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が86%であった。	・自主学習の仕方やノートの使い方など、具体的に提示しながら学年に合わせて取り組んでいけるように検討していく。	若手の教員が成長していくことはとても良い。引き続き研修を続けてほしい。  ITCを積極的に活用していただきたい。  国語では、同音異義語等についてもしっかり学習させてほしい。
	○学習指導の工夫・改善	・目標と評価を一体化させたわかりやすく、楽しい授業づくりの工夫をする。 ・電子黒板やホワイトボードなどを活用し、視覚的な支援を基にして、主体的な学びになるような授業作りをすすめていく。	・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。		・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者と、教職員が85%であった。	・今年度から教師の授業力アップのために、授業コンサルティングとして授業のアドバイスをもらい授業改善につなげている。来年度も引き続き取り組む。 ・学校全体で朝学習5分間の取り組みを行い、基礎学力定着につなげる。	
学力の向上	○互いを尊重し合える仲間づくり	・互いの良さを見つけ、互いに伝え合うことをめざす授業づくりに取り組む。 ・授業にペア学習やグループ学習をとり入れる。	・研究推進部からのアンケートにおいて、「研究主題を意識して進められた」について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた教師が90%以上。	B	・研究推進部からのアンケートでは、「研究主題を意識して進められた」について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた教師が95%以上いた。「伝え合い」では、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れている。	・書く活動が十分定着したと考えられるので、今後は、声づくりや相手意識をもたせるための音読を取り入れる。	音読は、大変良いので是非やってほしい。(書く事は難しくても、声に出して読むことはできる。また、耳から入るのでとても良い。)  コミュニケーション力をしっかり向上させてほしい。  伝え合う力は、育てて来ている様子が参観授業を見てもよくわかる。また、荒牧中学校の授業でもその力が発揮されているように感じる。
	○思考力・判断力・表現力の向上	・どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。  ・伝え合うこと、学び合うことについての目標と評価が一体となった、子どもがよくわかる授業づくりを検討する。  ・みんなが主体的に学習に参加するための場づくりについて模索し、研究授業で提案する。	・「書く活動を取り入れる」ことについての教職員アンケートにおいて、「あてはまる」と答えた教師が90%以上。  ・教職員において、「目標と評価を一体化させるなど、子どもが理解しやすい「よくわかる授業づくり」を実践している」において、「あてはまる」と答えた教師が90%以上。  ・指導内容に応じた場づくりを提案し、全職員で検討する。外部講師を招いて指導助言を得る。		・教職員アンケートにおいて、「書く活動を取り入れる」ことについて「あてはまる」と答えた教師は、97%で概ね意識できている。  ・教職員アンケートにおいて、「目標と評価を一体化させるなど、子どもが理解しやすい「よくわかる授業づくり」を実践している」について、「あてはまる」と答えた教師は、93%だった。  ・研究授業に向けて様々な「みんなが主体的に参加できる場づくり」が提案され、普段の授業で活用していこうと共有できた。しかし、学びの場づくりの捉え方を統一していく必要がある。		

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
特別支援教育の推進、充実	○計画的・組織的な支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>共に生き、ともに学ぶ学級・学校の実現を図る。</li> <li>子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。</li> <li>関係諸機関と連携を取りながら、通級指導、巡回相談やコンサルテーションを有効的に活用し、支援の必要な児童への理解を深め、支援方法を充実させる。</li> <li>支援が必要な児童については校内委員会で情報を共有し、職員全体へ共通理解を促していく。必要に応じてケース会議を開く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な子どもの特性を共通理解する研修を年に2回、特別支援教育についての校内研修を1回行う。</li> <li>教職員の評価アンケート「校内支援委員会が効果的に機能している」と回答する割合が90%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級の児童についての研修会を年2回、スキルアップ研修会を2回実施できた。児童の実態把握をし、特別支援教育に対して関心を持ち、工夫した授業づくりや学級経営に取り組む先生方が増えてきた。</li> <li>教職員の評価アンケート「校内支援委員会が効果的に機能している」と回答した割合が100%であった。</li> <li>部会内で情報交換をしながら、児童について共通理解ができた。</li> <li>転籍や進学に関して話し合いが必要な児童については、じっくり協議するため、早めに保護者と話をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的だった支援方法を周知し、共通理解をしながら、さらに意識を高めていく。</li> <li>研修内容がさらに実践で活用できるように、時期を検討していく。</li> <li>校内教育支援委員会で、児童にとってふさわしい進路、在籍を考えていくため、今後も保護者と連携していく。</li> </ul>	今後も、どの子どもも、いじめや差別がないように、しっかりと学級作りをして支援してほしい。
	○個別の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的配慮をふまえた個別の指導計画を作成し、サポートファイルステップぐんぐんや校内支援ファイルを通して、継続的な支援を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の評価アンケート「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」と回答する割合が85%以上になる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の評価アンケート「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」と回答した割合が97%であった。</li> <li>学期ごとに個別の指導計画を立てながら、支援方法について精査できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAのサイクルを確立するため、個別の指導計画を見直したり、加筆したりし、より充実した指導計画を目指す。さらに次年度の引継ぎにも有効的に活かしていく。</li> <li>サポートファイルの取り扱いについて全職員、周知していく。</li> </ul>	

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成 一					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
問題行動への指導・対応	○児童理解のための研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会や研修会で児童の情報を共有して理解を深めると共に、指導力の向上を目指す。</li> <li>・学級担任だけでなく、学年全体・学校全体で天小の児童に関わっていく。</li> <li>・三校合同研修会など、中学校とも連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、生活指導部会を開き情報交換を行う。</li> <li>・年度初めは学校全体で関わっていくべき児童の共通理解のために、年度終わりには取り組みの確認や次年度の引継ぎのために、研修会を開く。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導部会で、気になる児童や問題行動についての情報共有を密に行うことができた。また支援を要するクラスや児童についての対応も話し合うことができた。一方で共有する情報量が多く、部会の時間を延長したり、部会で話し合うべき新たな施策への十分な検討ができなかったりと、課題もあった。</li> <li>・研修会で児童の共通理解を行うとともに、気になる児童に進んで声をかけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の部会での情報共有は引き続き行う。一方で終了時刻を明確にしメリハリのある会議とするとともに資料の事前配布・蓄積など効率的な運営をめざす。</li> </ul>	地域でも、公園などで積極的に声をかけをしていきたい。
	○いじめの未然防止・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する事案に対応できるように、部会等で問題行動について共通理解を行う。</li> <li>・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。</li> <li>・「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。</li> <li>・不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「困ったときや悩んだとき、不安なときに、相談できる先生がいる」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・いじめ対策委員会を必要に応じて開き、すべてのいじめ案件について対策を考える。</li> <li>・不登校傾向にある家庭と連携し、すべての長期欠席の児童を何らかの関係機関につなぐ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「困ったときや悩んだとき、不安なときに、相談できる先生がいる」と回答した児童が62%で、昨年と横ばいであるものの目標を下回った。児童理解に努めるとともに、担任ひとりでは抱え込まず、チーム天小として児童に関わっていく体制をつくっていく必要がある。</li> <li>・いじめ問題対策委員会が適切に開かれ、いじめ案件について共通理解、対応を考えた。いじめの積極的認知を進めていくなかで、引き続き早期発見・早期解決に努めていく必要がある。</li> <li>・本年度は兵庫県立但馬やまびこの郷、伊丹市立少年愛護センター、SSW、SC、伊丹市こども福祉課、自立相談課、民生委員など諸機関や地域と連携しながら長期欠席児童ひとりひとりにあった対応を考えることができた。30日以上長期欠席児童は昨年度17名に対し今年度11名と減少傾向にある。一方で欠席が常態化してしまっている児童があり、不登校問題の根本的な解決には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任・担当する児童だけでなく本校すべての児童に積極的に関わられるよう部会・学年会・職員会を通して情報共有の機会をもつ。</li> <li>・いじめの積極的認知を進めるとともに、いじめ問題対策委員会を開いて適切に協議する。</li> <li>・不登校が長期化している児童については学級担任だけでなく学年担当・生活指導担当・管理職も含めて学校全体で関わられるように体制づくりを行っていく。</li> </ul>	
豊かな心・健やかな体	○生徒指導体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標や生活のきまりを守るように、日頃からの声かけや学級や全校集会で児童に指導する。</li> <li>・学年会や部会などで、児童の生活の様子について振り返る機会を持ち、全教職員意識を高める。</li> <li>・問題行動発生時の緊急連絡体制や日常の連絡・相談体制を見える化し、生徒指導体制の強化をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「先生たちは、友だちと一緒に生活するためのきまりについて教えてくれている」と回答する割合が90%以上になる。</li> <li>・教職員アンケート「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「先生たちは、友だちと一緒に生活するためのきまりについて教えてくれている」と回答したのは84%(昨年度84%)で、目標を下回った。</li> <li>・教職員アンケート「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」は100%(昨年度86%)であった。問題行動や緊急に対応しないといけない課題については速やかに報告が行われ、情報共有される体制が整ってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式や終業式など全校生が集まる場や、日々の学年・学級指導のなかで、ルールについて引き続き指導していく。</li> </ul>	いじめはないと思っても、本人にとってしんどい場面もあるかも知れないので、今後もしっかりと子どもの目線で見ていってほしい。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成 一					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
規範意識の向上	○親切・思いやりの心を持つ子どもの育成 ～進んで挨拶する礼儀正しい子どもの育成～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域社会の実態を踏まえ、道徳科の年間指導計画の作成に当たり、全体計画に示した重点的な指導が反映されるように配慮する。</li> <li>・主に教科用図書を中心とした年間指導計画をもとに授業・評価を行う。必要に応じて年間指導計画を改定する。</li> <li>・道徳研修会で評価の視点を検討する。</li> <li>・評価を見通した授業に取り組んでいく。</li> <li>・毎時間の学習の振り返りを記録している「道徳ノート」や発言・態度から児童の成長を認め、励ます評価文を目指す。</li> <li>・特別活動(学級活動や児童会活動)や生徒指導との連携で取り組んでいく。子どもたちの取り組みとして、児童会活動の呼びかけを学級活動に取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「先生や友だちに進んであいさつをしている」と回答する割合が70%以上になる。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・2月末に各学年の年間指導計画を見直す。</li> <li>・部会で評価の視点を検討して、各学年別の4つの内容項目での評価文例を作成する。</li> <li>・「道徳ノート」に自分とのかかわりで道徳的価値をとらえた記録文が書けるようになる。「今の自分は～」「自分だったら～」と自分ごととして捉えられているか)</li> <li>・児童会の呼びかけを学級活動として取り入れることであいさつする子どもが増え気持ちのよい環境ができる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「先生や友だちに進んであいさつをしている」と回答する割合が69.2%であった。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている」と回答する割合が87.1%以上になる。</li> <li>・評価の視点を4つの内容項目にしたことで道徳的評価をとらえた記録をもとに評価文が書けた。</li> <li>・各学年の評価文例を残すことで児童の実態を把握し年間計画の見直しにも役立てることができた。</li> <li>・教材による発問の型や授業の展開を具体的に模擬授業での研修をもつことで授業イメージを持つことができた。子どもが自分ごととして考える授業の手がかりとなった。</li> <li>・進んであいさつをする手立てが必要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「先生や友だちに進んであいさつをしている」と回答する割合が69.2%であった。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている」と回答する割合が87.1%以上になる。</li> <li>・児童の実態にあった教材を選び、礼儀・マナーに関することやがまんする心や他人への親切・思いやりの心の向上をはかる。</li> <li>・特別活動での学級会活動や児童会活動を有効に生かせる場の工夫が必要になる。連携をとっていきたい。</li> <li>・4つの内容項目の評価の視点をもとにした各学年の評価文例を作成する。(学年別評価例文として活用)</li> <li>・道徳的価値を多面的・多角的にとらえ、より深い学びになる授業作りの研修を計画的にもつ。</li> <li>・各学年の教材分析を部会でもてるように改革する。</li> <li>・ローテーション授業の提案</li> <li>・進んで先生や友だちにあいさつができる環境の工夫として各教室にあいさつ言葉をつけいした。6年間の生活における環境を整える。4月に実施できるように準備。例えば 1 はい。 2 ○○さん 3 ありがとう ごめんなさい 4 さようなら 5 こんにちは 6 おはようございます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを家庭に返していくことで、連携していけるので、今後も情報を発信して欲しい。</li> <li>人として生きて行くための大切な学習であるから、時間をしっかり保障して行くことが大切である。また、今後も評価をきちんと行って欲しい。</li> </ul>

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成 ー						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	〇体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に即した指導方法を検討していく。</li> <li>体力の向上につながるイベントを企画・運営をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに学年内で教材研究を深め、児童の実態に応じた場の設定や教材の選択をする。</li> <li>体力テストの結果を参考に、課題となる力を向上させる。</li> <li>体育大会やドッジボール大会を企画・運営をし、体力の向上を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの学年が打ち合わせた上で、クラス間での差がない単元構成が練られていた。それにより、クラス間での「指導した」「指導していない」等の差がなくなっている。</li> <li>体力テストの結果によると、本校児童の課題は毎年変わっており、種目を絞って向上させることは望ましくない。それよりも、測定に差が出ないような取り組みや、総合的に高めていくために日々の体育学習の充実を計画していく方がよい。</li> <li>ドッジボール大会は今年度も体育委員会主催で行った。大会を通して運動だけでなくクラス作りにも役立っている。</li> <li>負けたチームのフォローが大切で、運動嫌いにならない配慮が必要である。</li> <li>体育大会では熱中症対策で午後の練習や提案以上の練習(約10単位時間)について厳しく禁止となった。今後の体育大会の開催時期・プログラム・種目・演技内容・運営方法を再検討する必要がある。</li> <li>連合体育大会が今年度で終わり、6年生が他の学校から学ぶ機会がなくなった。また、体育大会後に6年生が練習する必要がなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドッジボール大会では、勝敗の受け入れについて学級指導が必要な上、体育委員会の意識を上げて、児童がそれを広めていく形が望ましい。</li> <li>来年度の体育大会実施時期については、今年度より1週間遅らせて実施する。(猛暑日を選けるため。連体に合わせる必要がなくなり可能になった。)</li> <li>春開催については来年度以降の検討になる。春開催であっても体が気温の変化についていけず、熱中症になるケースが多く報道されている。</li> </ul>	<p>縦の繋がりを大切に活動として、いたっボールなどでも、今後も活躍してほしい。</p> <p>体育大会の日程をもっと遅らせるなど、行事全体のバランスを見ながら今後も検討していくと良い。</p>	
	〇健康な身体・心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムに応じた保健学習、保健学習参観、発達段階に応じた保健指導、「ほけんだより」を活用し、家庭教育と連携した保健指導の実施により生活習慣の改善を図る。</li> <li>クラスでの保健指導の材料として使用できる「保健だより」を作成し、「保健だより」を配布する前に職員朝礼で職員に伝える。配布時に担任が「保健だより」を使って保健指導をして児童が健康の大切さを意識できるようにする。</li> <li>むし歯・歯肉炎の治療や視力低下児童の早期受診を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠、食事、身の回りの清潔等、基本的な生活習慣の改善を図る。</li> <li>学校評価アンケートの「学校は、健康の大切さについて保健の授業や保健だよりなどで指導している」という項目において「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。</li> <li>むし歯・歯肉炎・視力低下で一度も受診していない児童の解消をめざす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムに応じた保健学習及び保健学習参観では、(児童の発達の段階を考慮して学年でテーマを考え実施することができた。今年度は、新たに教材を揃えることができた。とくに保健学習参観では、児童の感想にはまた、保護者からという意見が多かった)</li> <li>〇転地学習前と修学旅行前に月経指導を行うことで、自分の体の変化に対する知識を深めた。また、月経指導をすることで、指導後、体の変化に対する不安を個別に質問をする児童が増える等相談しやすい機会にもなった。</li> <li>〇年間を通じて保健行事の際に、ミニ保健指導を行うことで、その月の保健目標について具体的に指導し保健目標の強化につなげたり、その時季に流行するけがや病気の予防に努めた。</li> <li>むし歯や視力低下のため受診が必要な児童に対して受診勧告書を配布した。また、学期毎の身体測定や視力検査後すぐに、治療状態が記載されている「けんこうカード」を返却することで、未受診の家庭に年間合計4回お知らせを配布することで早期受診を呼びかけた。</li> <li>1年生対象のブラッシング指導に保護者の参加を促し、保護者にも仕上げ磨きのご協力を依頼する機会を設けた。</li> <li>「保健だより」を配布するときに、児童と一緒に読み、保健だよりを利用してポイントをつかみながら保健指導できた学級もあった。</li> <li>長期休業明けに「すくすくチェック」を実施し、生活のリズムづくりへの意識化が図れた。</li> <li>学校評価アンケートの「学校は、健康の大切さについて保健の授業や保健だよりなどで指導している」という項目においてA+Bは、高学年児童75.5%(昨年72.9%)保護者97.3%(昨年98.2%)教職員96%(昨年96%)だった。</li> <li>むし歯の受診率50.0%(昨年48.3%) 視力の受診率41.0%(昨年47.0%)</li> <li>高学年児童のアンケートの結果は、昨年より上がったものの目標には満たない。</li> <li>保護者用のアンケートに「教室にいるのがしんどい子が、保健室以外にいける居場所があればいいと思う。作ってほしい」とのご意見。2学期から保健室登校の急激な増加があった。*教職員用のアンケートに「養護教諭の加配を受け、組織的に動くように努力している」とのご意見。</li> <li>児童、保護者との個別指導の充実し、一人ひとりに対してきめ細やかに対応し、心身に問題を抱える児童や保護者に寄り添うことができた。</li> <li>特別な配慮が必要な血友病の児童など、年度初めに児童の顔写真つきで対応について全体周知することや、Eピベン研修を行い食物アレルギー対応を行うなど救急体制作りに努めた。</li> <li>宿泊行事前の健康調査とTo Do リストを作成し、保護者や看護師との面談を学年と協力して行い、児童が安心して宿泊行事に参加できるようにきめ細やかな対応や健康管理の向上につなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>むし歯や視力の治療を、受診勧告書・けんこうカード・保健だより等、多くの機会をつかって呼びかけていく。</li> <li>全く受診に行かない家庭へは、懇談の機会に個別に受診を勧める。</li> <li>定期的に「保健だより」を発行するとともに、クラスでの保健指導の材料として使用できる「保健だより」の作成をめざす。「保健だより」を配布する前に、職員朝礼で職員に伝える。配布時に担任が「保健だより」を使って保健指導をして児童が健康の大切さを意識できるようにする。</li> <li>保健室登校の利用の対応の仕方については、長期になる場合は担任と学年が主となり、学校全体で組織的な体制を作っていく必要がある。</li> </ul>	<p>むし歯の治療に親しては家庭の協力が無ければできない。</p>	

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学校情報の積極的な発信	○参観授業の実施	・オープンスクールや授業参観で学校を公開し、学級懇談会・講演会などで情報を発信する。 ・人権参観では講演会を開いた。人権担当者と協力して講演会の参加人数が増えるように、講演者・内容等のお知らせのプリントを作成し配布する。	・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施し、参観者が増えるような学級懇談会・講演会を工夫する。	A	・参観に関するアンケート項目で「あてはまる」と回答した保護者が95.5%であった。ただし、今年度については、インフルエンザの流行によりオープンスクールが実施できなかった。また、新型コロナウイルスによる臨時休校のため最後の参観・懇談が実施できなかった。	・講演会については、保護者の参加が少ない。学校の実態に合わせた内容を検討していく。	
	○ホームページの整備、学校だよりなど地域への公開	・ホームページで学校の情報を発信する。  ・多くの職員がホームページの更新作業に関わることができるよう、マニュアルを作成する等環境の整備を行う。	・各学年の活動の様子を月1回以上を目安に更新する。 ・行事や児童の活動の様子について、ホームページを通じて学校外へ発信する。 ・月間の行事予定や学校からの連絡をホームページで知らせる。  ・HP更新マニュアルの作成と更新の啓発	B	・休み時間の子どもたちの活動の様子や授業風景をホームページで発信することができた。 ・警報発令時の自宅待機のお知らせや解除による登校のお知らせ等をHP上で素早く連絡することができた。  ・更新のマニュアルを作成し、各学年に配布することができた。 ・更新の頻度が少ない所には声かけなどの啓発を行い、更新を促すことができた。	・個人情報保護に努めながら、よりよいHPづくりを目指していきたい。	発信の方法や内容については、今後も引き続き課題を確認しながら進めていく。
開かれ信頼される学校園	○安全教育の取り組みと避難訓練の実施	・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。  ・防犯訓練の計画・実施。 ・職員の不審者対応研修の計画・実施。  ・定期的な安全点検や登下校指導。 ・事故防止、交通安全の啓発。 ・交通安全教室の実施。  ・校区内の工事に伴った、通学路変更。	・年2回の避難訓練、年1回の防犯訓練、年1回の緊急時下校訓練を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。  ・警察を呼んで研修を行い、職員の緊急時の対応や連絡方法について理解を深める。 ・不審者対応時の流れを計画し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。  ・年16回の登校指導、年10回の下校指導を行う。引き継ぎノートを活用し、通学路の安全についてや、児童の登下校の様子について指導を行う。  ・学校周辺の事故の連絡などを行い、児童に危機意識を持たせる。 ・学校や、地域の実態に合った	B	・計画通り年3回の訓練を行うことができた。  ・防犯訓練の実施で、不審者が侵入してきた時の身の守り方を児童が確認できた。 ・教師の動き方の確認や、道具の使い方を確認することができた。  ・自転車安全教室(3年)を実施し、交通安全に関する子どもたちの意識の向上を図った。  ・PTA等とも協議しながら、適切な通学路に変更できた。	・様々な事案に対応できるよう、訓練の内容を見直していく。  ・職員研修の内容を検討していく。  ・自転車の安全な乗り方について、継続的に指導を行っていく。	自治会、老人会の今までの見守りも続けては行くが、朝の立ち番までは難しい。 防犯については、地域の力が大変発揮できている。 地区懇談会のあり方は、今後見直しが必要かも知れない。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
教育環境の整備	○校内の安全点検	・日常的な学習活動の際の安全確保。 ・毎月、定例の安全点検の実施とその修繕	・項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。	B	・安全点検で、毎月破損しているところや危険な場所を早めに見つけることが出来、修繕できた。	・来年度も定期的な安全点検を行う。	ボランティアなどの募集は、自治会等にお願ひしてみることも良いかも知れない。 職員の参加が年々減少しているため、植木剪定などの日程や時間の工夫も考えてはどうか。  大人が一生涯命とり組む姿を子どもに見せることは、大切なのでトイレ掃除のボランティアはとても良かった。
	○学校教育環境充実のための取り組み	・清掃用具の点検・充実。  ・清掃用具の見直しを行い、その場にあった用具を使う。 ・委員会活動との連携。  ・職員作業として、周辺環境の整備。 ・学期末大掃除	・清掃用具の定期的な点検と補充等を行う。  ・用具の正しい使い方の指導を引き続き行うとともに、壊れたままの清掃用具を0にする。  ・大掃除を通して、普段及ばない箇所を重点的に取り組む。  ・清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。	B	・清掃場所にあった清掃道具の見直しを行い、定期的な点検・補充を行った。  ・必要な用具を買い足したり、壊れたままの清掃用具をなくすよう取り組んだ。  ・委員会活動と連携し清掃の点検をすることができた。  ・長期休み前に、各学年割り当て、普段及ばない箇所も掃除することができた。  ・PTAのボランティアスタッフに声かけし、大掃除の際のトイレ掃除に協力を得ることができた。  ・全学年統一した時間に大掃除を行うことができた。  ・トイレ掃除のボランティアスタッフより、衛生面を考慮して使い捨て手袋を使用するべきだという反省やトイレ掃除の統一を図るべきだという反省が挙げられた。	・清掃用具の修理や見直し、学校周辺の清掃、整備を継続して行う。  ・壊れたままの清掃用具が0になるように、委員会とも連携しながら声かけを続ける。  ・貼り紙や声かけなどで、より一層のトイレ掃除の統一を図る。	

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成 ー								
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携								
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価			
教職員の資質向上	教職員の研修の充実	○授業の質を高める授業研究	・校内研修として年1回以上、授業を公開する機会を持つ。 ・授業の質を高めるための研修、研究の充実を図る。 ・「めあて」と「ふりかえり」を取り入れ、児童も教師も、見通しを持って学習に取り組めるよう工夫する。 ・外国語、道徳の研修を充実させる。	・全教員が年1回以上、授業を公開する。 ・全学年1回の研究授業と、随時スキルアップ研修を行う。 ・全授業で「めあて」を確認し、「ふりかえり」の時間を確保する。 ・外国語・道徳、ともに一回以上研修を行う。	B	・全教員が年1回以上、授業公開することはできたが、参観者が少なく、授業者への十分なフィードバックが行えなかった。 ・全学年の研究授業と事前・事後の研修を行った。年度末評価において「校内研究会は、自身のスキルアップや授業改善につながっている。」の項目において、「当てはまる」と答えた割合が90%を超えていた。 ・「めあて」と「ふりかえり」を意識した授業づくりを行った。 ・外国語・道徳、ともに職員研修を行った。	・声かけや日程調整等、参観者を増やす工夫を行う。 ・「めあて」の内容について話し合う場を設け、中身の充実を図っていく。	教員が授業研究に力を入れることができるように、校納金の未納者への対応などのお金の管理は、市で管理できないだろうか。(教材費などは、学校独自のものであるため、今のところは難しい。)		
		○全職員の学校教育目標達成に向けた参画	・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。	・学校教育目標に関するアンケート項目について「あてはまる」と、回答した教職員が、85%以上になる。		A	・学校学校教育目標に関するアンケート項目について「あてはまる」と回答した教職員は93%だった。 ・学校教育目標を達成に向け、全職員の共通理解が深まり、教育活動を十分に実施することができた。 ・教職員の編成に関するアンケート項目で「あてはまる」と、回答した教職員が96%であった。本項の現状を踏まえた教育課程を編成し実施することができた。		・今後も教育課程部と研究推進・生活指導が連携し、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成できるよう、現状を踏まえた教育活動を実施する。 ・来年度より、新学習指導要領での実施となる。今年度の反省を生かし、児童の負担がないよう行事とのバランスや時間割の作成を行っていく。	学校が臨時休校になり学校がいかにか色々なことを担っていたのかを改めて知ることとなった。これを機会に家庭での教育についても見直していきたい。
		○児童の現状を踏まえた教育課程の編成	・新学習システムを児童の実態に応じて円滑に運営する。	・教育課程の編成に関する「あてはまる」と、回答した教職員が85%以上になる。			・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が76%で、85%を達成できなかった。 ・近年、校務分掌の仕事量の偏りを4分の1の教職員が感じている。 ・教職員の業務改善が喫緊の課題である中、教職員構成に見合った校務分掌担当のあり方や業務内容、業務の割り振り等の見直しを図ることが求められている。		・教職員定数が増えない中、特定の業務担当に負担が集中しないよう、例えば部会等での役割分担を更に進めたり、前年度の引継ぎの参考として作られている各部の活動歴を活用しながら、それぞれの業務負担の軽減に取り組んでいく。 ・来年度も、全職員で協力しながら、組織で動いていく。	
○一人一役の校務分掌・職場の同僚性	○学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実施する。 ○部会を活用し、担当者だけの負担にならないよう分担していく。	○校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上である。	B	・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が76%で、85%を達成できなかった。 ・近年、校務分掌の仕事量の偏りを4分の1の教職員が感じている。 ・教職員の業務改善が喫緊の課題である中、教職員構成に見合った校務分掌担当のあり方や業務内容、業務の割り振り等の見直しを図ることが求められている。	・教職員定数が増えない中、特定の業務担当に負担が集中しないよう、例えば部会等での役割分担を更に進めたり、前年度の引継ぎの参考として作られている各部の活動歴を活用しながら、それぞれの業務負担の軽減に取り組んでいく。 ・来年度も、全職員で協力しながら、組織で動いていく。					
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	教育目標の設定	校務分掌等の連携		学校関係者評価総括						
次年度に向けた重点的な改善点	・教職員が外部講師を招聘するなどして、しっかり計画的に研修をして、授業力を高めていこうとしていることが伝わった。 ・新しい時代の流れに沿った教育と、これまでの地域の伝統を大切にして教育を推進していただきたい。 ・児童の実態に応じて今後も教育活動を進めていただきたい。そのためにも地域として支援、連携を進めていきたい。	・今年度引き続き、「授業改善・危機管理」を大きなテーマとして学校運営を推進していく。 ・タブレットの導入など新たなことにも積極的に取り組み、これからの将来を担う児童の力を培っていく。 ・各部、各担当が中心になって本年度の課題を解決しながら、自主的に動き、組織として学校運営を行っていくように今後も努力していく。		自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った						